

令和8年度 第1回学校運営協議会 議事録

● 日時：令和8年6月22日(月) 10時00分～12時00分

● 場所：北海道新篠津高等養護学校 会議室

1 開会 【校長挨拶】

おはようございます。4月の入学式から始まり、先日の体育大会、そして「しんこうカフェ」の運営など、日頃より本校の教育活動にご協力いただき感謝申し上げます。今年度、本校の卒業生が村内で就職し、元気に働く姿を毎日見られることを非常に嬉しく思っております。彼らが地域で学びを活かし、社会の一員として貢献している様子は、私たちの教育の成果そのものです。本校は「地域全体で子供たちを育てる」という理念のもと、このコミュニティ・スクールを通じて、共生社会の実現を目指しております。新しく加わった委員の皆様とともに、子供たちの未来のために知恵を絞っていければ幸いです。

2 会長及び副会長の選出

学校運営協議会会長に原田氏、副会長に今田氏を全会一致で選出した。

3 学校運営協議会要綱等の確認及び令和8年度学校運営協議会年間計画について 説明者：副校長

■ 資料に基づいて説明。

学校運営協議会の設置要綱および年間活動計画について説明いたします。委員の任期は2年ですが、異動等の際は随時対応いたします。第2回は11月中旬、第3回は2月下旬を予定しております。内容については、今後の状況により柔軟に修正してまいります。

【委員からの質疑・意見】

特になし。

4 令和8年度学校経営方針(構造図)について 説明者：校長

■ 資料に基づいて説明。

本校が目指すのは「学校で完結しない教育」とともに、地域全体で子どもたちを育てる「開かれた学校」を目指します。今年度のキーワードとして「手応えのある学び」を掲げています。これは、単なる知識の習得だけでなく、五感を通じて「自分はできている」「役に立っている」という実感を伴う学びのことです。例えば、カフェでの接客で「美味しい」と喜ばれたり、村の祭りで拍手を受けたりする経験が、子どもたちの自己肯定感と将来の自立に繋がります。また、教職員とともに学び、成長する組織でありたいと考えています。地域との連携を通じて、大人も子どもも成長できる学校づくりを進めてまいります。

【委員からの質疑・意見】

特になし。

5 校内、寄宿舎見学

学習の様子や寄宿舎の見学を行った。

6 本校の教育活動などについて 説明者:副校長

■ 資料に基づいて説明。

はじめに「地域を生かした学習」についてです。これは現在、校内で地域の方々のお力を借りながら進めている教育活動のまとめです。先ほどコーヒーを飲みながらお話ししたコミュニティスペース「よつば」を活用した生産技術科の授業や、札幌あいの里高等支援学校との交流事業である「アイサークル」への参加などが含まれます。また、村内のパークゴルフ場を利用した保健体育の授業や村の卓球大会への参加など、活動の場が広がっております。

次に、今月初めに行った「介護体験」に参加した学生のアンケート結果について報告します。2日間の活動を終えた学生たちが感じた、本校の特色や傾向をまとめたものです。資料に記載した「本校の特色」については、校長からも説明があった「どのような生徒を育てるか」という方針や、「生徒の可能性を引き出す取組」、「活気ある校風」といった点について、非常に好意的な意見をいただいております。

最後に、昨年度までの本協議会における「熟議」の結果、実際に形になった取組についてです。最も大きな成果は「しんこうカフェ」の運営です。毎回 50 名以上のお客様にご来店いただき、接客を通じた地域の方々との交流は、生徒たちにとって非常に大きな力となっております。また、他学科の参加についてもご意見をいただき、現在、他学科による販売などの検討も進めております。その他、教育環境の整備として、生徒が実習として駐車場の白線を引くなどの学習活動も実施しました。

【委員からの質疑・意見】

○ 委員

寄宿舎生活について伺います。私の知り合いの中学3年生が本校への入学を検討していますが、寄宿舎に入ることに不安を感じているようです。新しく入校した生徒たちは、実際にどの程度で寄宿舎生活に馴染んでいくものなのでしょうか。

→寄宿舎生活において最も大切なのは、本人の納得感です。「3年間ここでやり抜く」という本人の意思がなければ、入学後にイメージとのギャップが生じた際、登校できなくなるなどの課題に繋がる可能性があります。そのため、本人の意思を尊重し、十分に納得した上で入舎することが前提となります。納得して入舎した生徒であれば、友人や教職員との関わりを通じて、自然と生活に馴染んでいく傾向にあります。6月から11月末まで教育相談を受け付けていますので、体験入学などを通じて、本人がじっくりと納得できるまで検討していただくのが望ましいと考えます。

○ 委員

私の子どもは、最初は「寄宿舎は嫌だ」と言っていました。しかし、実際に入ってみると信頼関係を築ける友人ができ、卒業した今でも「本当に楽しかった」と振り返るほど充実した時間を過ごせました。もちろん、中には適応が難しいケースもあると思いますが、親の立場としては、集団生活の中で自律心を養う非常に貴重な機会だったと感じています。

○ 委員

私の家でも、事前に「寄宿舎だよ」と伝え、ネガティブなイメージをもたせないように準備してきました。最初は不安定な時期もありましたが、1年半が経過した今では、自分でできることが格段に増えて成長を実感しています。早いうちから心の準備しておくことは有効だと思います。

○ 委員

保護者の方が先を見据えて、子供の自立のために集団生活の道を選んであげることが非常に重要です。家庭で保護されるだけでなく、若いうちに集団生活を経験しておくことは、将来的に施設などを利用する際のスムーズな適応にも繋がります。それは、将来的な子供の生活を守ることにもなります。

7 閉会

【校長挨拶】

本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございました。

本日は子どもたちの学習の様子をご覧いただきましたが、地域の方々に見守られ、声をかけていただく中で、子どもたちは着実に成長しております。私たち学校のみでは及ばない部分を、地域の皆様に力強く後押ししていただいていることに、心から感謝申し上げます。

次回の第2回協議会は「熟議」という形式を予定しております。そこでは、実現できるかどうかは別として、「こんな取組をしたら子どもたちにとって良いのではないか」「活動がさらに発展するのではないか」といったアイデアを、皆様と自由に語り合える場にしたいと考えております。

11月の開催までまだ時間はございますので、ぜひ様々なアイデアをお寄せいただければ幸いです。本日は誠にありがとうございました。